

痛みで

デュロキセチンカプセル「日医工G」を 服用される患者さんをご家族の方へ

このお薬は、長く続く痛み（糖尿病性神経障害、繊維筋痛症、慢性腰痛症、変形性関節症に伴う疼痛）を和らげるお薬です。

うつ病にも使用されますが、その効果とは別に、これらの疾患に伴う痛みに対する効果を示します。

デュロキセチンカプセル「日医工G」 主な副作用

このお薬を飲むと、眠気、胃部の不快感（ムカムカする）などがあらわれることがあります。症状が辛い場合、症状が続く場合、そのほか気になる症状がある場合は、主治医または薬剤師にご相談ください。



- うつ病など、精神科の病気で治療されている場合は、精神科の病気の症状に影響する場合がありますので、服用を始める前に主治医に伝えてください。
- 下記のような症状があらわれることがあります。その場合は、主治医と相談の上、必要に応じて精神科／心療内科の受診を検討してください。
 - ・ 特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあります。
 - ・ 不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。

糖尿病性神経障害に伴う痛みがある患者さん

- 1日1回、朝食後に服用してください。
- 服用量は20mgから始め、1週間以上の間隔を空けて40mgに増やします。
- 効果が不十分な場合は、60mgに増やすことがあります。
- 痛みがあるときだけでなく、毎日服用することで効果を発揮します。
- 効果があらわれるまでに、時間がかかることがあります。

20mgから服用を始めます。（1日1回、朝食後に服用）

最初の1~2週間は、眠気や吐き気などの副作用があらわれることがあります。自然に治まってくることもあります。気になる場合は主治医にご相談ください。

1週間以上空けて40mgに増やします【通常治療用量】
(1日1回、朝食後に服用)

効果が不十分な場合は
60mgに増やすことがあります。
(1日1回、朝食後に服用)

毎日、服用を継続してください。
(自己判断で服用を止めたり、服用量を調節したりしないでください*。)

服用を止めるときは、
主治医の指示のもと、少しずつ服用量を減らしていきます*。

※自己判断で服用を止めたり、量を減らしたりすると、不安やいろいろな症状を改善し、良い状態を保つためには、主治医の指示通り

お薬の飲み方

線維筋痛症、慢性腰痛症、変形性関節症に伴う痛みがある患者さん

- 1日1回、朝食後に服用してください。
- 服用量は20mgから始め、1週間以上の間隔を空けて40mgに増やします。さらに1週間以上空けて60mgに増やします。
- 痛みがあるときだけでなく、毎日服用することで効果を発揮します。
- 効果があらわれるまでに、時間がかかることがあります。

20mgから服用を始めます。（1日1回、朝食後に服用）

最初の1～2週間は、眠気や吐き気などの副作用があらわれることがあります。自然に治まってくることもあります。気になる場合は主治医にご相談ください。

1週間以上空けて40mgに増やします
（1日1回、朝食後に服用）

さらに1週間以上空けて60mgに増やします【通常治療用量】
（1日1回、朝食後に服用）

毎日、服用を継続してください。
（自己判断で服用を止めたり、服用量を調節したりしないでください*。）

服用を止めるときは、
主治医の指示のもと、少しずつ服用量を減らしていきます*。

どの気分の変動、頭痛や吐き気などの症状があらわれることがあります。
に、決められた量のお薬を継続して服用することが大切です。

デュロキセチンカプセル「日医工」 服用中の注意点

- 心拍数や血圧、肝機能に影響することがあります。そのため、脈拍数や血圧測定、血液検査を行うことがあります。

- 自動車の運転などが必要な場合は主治医に相談してください。**眠気・めまいなど、自動車の運転に影響を与える症状があらわれることがあるので注意してください。**また、これらの体調不良を自覚した場合は、絶対に運転しないでください。特にお薬の飲み始めや飲む量を変えたとき、他のお薬から変えた際にこれらの症状があらわれやすいため、主治医より運転などをしないように指示があった場合は指示を守ってください。



- 高齢の方はめまいなどにより転倒することがありますので、注意してください。
- 糖尿病の患者さんでは、血糖値などに影響することがあります。その場合は、糖尿病治療薬の服用量を調節することがあります。

- アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこのお薬の作用に影響しますので、控えてください。**



- 痛み止めのお薬である非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)には副作用として消化管出血があり、このお薬と併用すると、そのリスクが高まる恐れがあります。**気になる症状がありましたら早めに主治医または薬剤師に相談してください。**



日医工株式会社